

一基の寶塔若に蒸し千秋の威を喚ぶ世俗岡益の石堂と稱し、今は宮内省御陵墓參考の地となる。附近を開きて公園とす。

安養寺。西伯郡五千石村大字山市場にあり。米子の東南一里。時宗を奉じ、後醍醐帝の皇女瓊子内親王の開基とす。境内に接し内親王の御墓存す。

船上山。東伯郡赤崎村の南三里以西村にあり。元弘三年名和長年後醍醐帝を奉じて此に勤王の軍を擧ぐ、山中智積寺ありしが明治の初之を廢す。元弘帝の行在所たり。全山森林を以て被ふ。

島根縣 (一)

(島根縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

三瓶山、江川(長さ、交通)、斐伊川(長さ、船通山、神門の平野)、島根半島(長さ、地勢)、美保關、中海(周回沿岸の諸港、交通)、美保灣(艦隊の碇泊)、宍道湖(大さ、風景、交通)、隱岐(成立、面積、人口、物産、地勢、民業、舊跡)。

郡邑

松江市位置、人口、舊跡、官衙、濱田町(人口、輸出入、貿易先)。

産業及物産

錫(産額、輸出先)、出雲燒(産地)、砂鐵(産額)。

交通上の事項

松江と東京、京阪、九州地方間の交通。

神社佛閣名勝舊跡等

出雲大社(祭神)、美保神社(祭神)。

揮毫

美保神社、松江市、宍道湖、後鳥羽院陵廟跡、西郷港、松江城、濱田町、出雲大社、松江附近の航路圖。

備考

三瓶山。死火山にして、直徑凡半里の噴火口あり。

江川。長さ五十餘里、管内を流るゝこと二十三里十四町、備後の三次より下流三十里間舟楫の便あり。

斐伊川。長さ二十一里二十六町、源を船通山(三千二百尺)に發す、素戔鳴尊の古事に在

る島上山或は簸川上は此の山なり。斐伊川の下流に稍廣き平野あり、之を神門の平原といふ。川は宍道湖に注ぐ。

島根半島、宍道湖の西北隅より起り地蔵鼻に至る、長さ十一里餘、巍峩たる山脈連互す。

美保關、島根半島の東端、美保灣に臨みたる一小港なり。國幣中社美保神社あるを以て著名なり。

中海、周回十六里餘、沿岸に米子(鳥取縣)、安來等の港あり、外海に通ずる所に境港(鳥取縣)あり、中に大根島あり、諸港と松江との間に汽船の往復ありて交通便なり。

宍道湖、周回十一里三十三町、面積四万里八步、東西四里十二町、南北一里二十二町ありて青巒四周し、湖中には嫁ヶ島あり、風景絶佳なり、湖上には汽船往復して沿岸諸地と松江との間の交通便なり。

隱岐、島前島後より成る、島前は西南の三島をいひ、島後は東北の一島をいふ、面積二十二方里二分九厘、島後は十五方里四分九厘、島前は六方里八分なり、人口三萬七千、全島殆んど山なり、人民は主として漁業に従事し、島根縣の物産たる錫は主として此所に産す、島後には西郷港あり、島前の中島には後鳥羽天皇の行在所及び御火葬

場の跡あり、西島には後醍醐帝の行在所なりと稱する所あり、海底電線松江の北海岸より各島に通ず。

(注意) 増鏡には後醍醐天皇を隱岐の國分寺に遷し奉つる由記せり、國分寺は島後四郷港の西北なり、四島黒木御所の事は書に見る所なし。

松江市、宍道湖の東岸、大橋川に跨り、人口三萬四千五百餘、松平氏の舊城下にして、島根縣廳あり、山陰道第一の都會なり。

濱田町、人口一萬二千六百七十七人(三十九年九月現在)、開港場にて貿易先は主として韓國なり、輸出品の主なるものは半紙、木材及板類等にして、其額明治三十八年に於て四十五萬六千六百七十一圓なり。

錫、産額は明治三十七年に二十二萬八千圓なり、大阪を経て清國に輸出す。

出雲燒、松江市の東樂山より出づる陶器を樂山燒又は御山燒といひ、西南宍道湖の沿岸一里布志名より出づるものを布志名燒といふ、出雲燒と稱するは此の二者を指す。

砂鐵、産額は全國に冠たり、明治三十八年に於て三百八十八萬六千三百十六貫にして、價額四萬四千二圓なり。

交通 松江京坂間の交通は松江舞鶴間の汽船及坂鶴鐵道により、松江東京間の交通は該交通線によるか若くは松江敦賀間の汽船及び敦賀東京間の鐵道による、松江九州地方間の交通は松江より境港(鳥取縣)を経て下關、門司に至る汽船による。出雲大社 祭神は大己貴命にして神代の創建にかゝる。美保神社 祭神は事代主神なり。

島根縣(二)

(島根縣女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

地勢 出雲石見の東南には中國山脈連亘して地勢高峻なり、其脈直ちに海岸に迫るを以て平野尠し。

島根半島 もと離島なりしが、斐伊川の土砂堆積して、簸川平野を構成せしため、遂に半島となりしものにして、宍道湖と中海とはその海跡湖なり。

隱岐島と三瓶山 隱岐島は能登火山脈に屬し、三瓶山は白山火山脈に屬す。

郡邑

松江 宍道湖の東岸にあり、山陰第一の都會にして人口三萬五千、縣廳ここに在り、風

景絶佳なり。

杵築 出雲大社あるを以て著はる。

濱田 貿易港にして歩兵第二十一聯隊ここに衛戍す、人口一萬三千あり。

西郷 灣内水深くして碇泊に便なり。

産業及物産

産業は農業最も盛にして、水産業、鑛山業之に次ぐ、物産には米、砂鐵、錫、出雲燒、紙等あり、米は簸川平野に二十五萬石、縣下を通じて九十八萬石あり、山陰第一なり(明治三十七年度)砂鐵は百十餘萬貫(明治三十六年度)錫は二十三萬圓(明治三十七年度)紙は石見に多くして二十二萬圓(同上)、出雲燒は十二萬圓(同上)の産額あり。

交通上の事項

陸路の交通は不便なれども、海には汽船の往復頻繁にして、隱岐には海底電線を通せり。

神社佛閣名勝舊跡等

出雲大社 神代の創建にして大國主神を祀れり、社殿古雅宏壯にして參詣人常に絶えず。

島根縣 (二)

一九二

古跡 古史に名高き簸川^{ヒノカガハ}上は斐伊川の上流にあり、隱岐には後鳥羽上皇、後醍醐天皇の御遺跡あり。

以上各項の外重要な事項

竹島 隱岐を去る西北八十五哩の竹島は隱岐嶋司の所管なり。

面積人口 面積四百二十五方里餘、人口七十四萬四千餘。

備考

出雲大社はイヅモオホヤシロと稱ふるあり、或はイヅモタイシヤと稱ふるあり、内務省神社局某氏の著にかかる神宮官幣社神祇要錄上卷にはイヅモノタイシヤと讀ましめたり、實際當地方に於ても一定せず、依て出雲大社社務所に照會せしにイヅモオホヤシロと訓讀する方正當なりとの回答を得たるを以て之に依る。又斐伊川はもとヒノカハ(又は大川)と稱せしものなれども、斐伊川の文字を適用せるが爲め、自然に之を音讀して斐伊川と稱するに至れるを以て變更を加へず。

四國地方

德島縣

(德島縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置境界 中央山脈につきて劍山の高さ、祖谷山中の交通不便并蔓橋の奇觀、吉野川につきて其別名、其長さ、洪水の憂多けれども、上流諸郡に煙草を産し、中流以下の諸郡に有名なる藍を産すること、那賀川舟運の便乏しきも、上流森林に富むこと、鳴門海峡は瀬戸の内外により潮汐干満に大差を生じ、ために海面激流渦巻を生じ舟行困難なること、潮汐の速度等。

都邑

德嶋市 行政廳所在地と縣物産特に藍の販路本たること并に大阪、神戸等へ日々汽船往復し交通の便なること。

産業及物産

藍、鹽、煙草等の産額。

挿畫

鳴門渦流圖

德島縣

香川縣

(香川縣師範學校報告)

都邑

高松市 縣廳の所在地にして瀬戸内海の岸にあり内海往來の汽船多く出入し特に對岸岡山市との鐵道連絡航路開けしより運輸の便一層よくなれり市の南郊に名高き栗林公園あり

善通寺 善通寺には第十一師團司令部あり

坂出 坂出の附近は製鹽業最も盛なり

産業及物産

土地よく開けて住民多く製鹽及麥稈業ことに盛なりまた多く砂糖を産す

愛媛縣

(愛媛縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

石鎚山 山上に石鎚神社あり夏日行者の登山するもの多し

都邑

佐田岬 西に突出すること二十六海里大分縣の地藏岬と相對し其間八海里なり

松山市 元久松氏十五萬石の城市にして中央に城山あり天主閣等今猶完存す人口三萬五千伊豫鐵道其附近を通せり城山の西麓に兵營及び旅團司令部あり三津濱町及高濱港は其門戸なり

高濱港 前面に與居嶋(伊豫の小島)を控へ風波を避くるに便なり

道後温泉 松山の東北半里許にありて鐵道の便あり古來有名なる温泉にして僕麻質斯貧血症皮膚病等によし

宇和嶋町 元伊達氏十萬石の居城のありし處にして城址今尙存せり宇和嶋運輸會社ありて其汽船は大坂商船會社の汽船と共に大阪宇和嶋間を航行せり

今治町 綿ネルの製造盛にして其東南二里餘なる櫻井村は漆器を産す又其村には脇屋義助の墓あり

産業及物産

別子銅山 一ヶ年八百餘萬斤を産し四坂嶋にて精煉す

愛媛縣

高知縣

紙及蠟、各年額百餘万圓を産す。

アンチモニー、鉛と和して活字地金又は彈丸に用ひ、硫化アンチモニーは顔料又は
燐寸の頭藥に用ふ。

揮畫

松山の城、道後温泉

高知縣

(高知縣師範學校報告)

山川岬角、海灣等自然地理上の事項

仁淀川、渡川、室戸岬、足摺岬、浦戸港

都邑

高知市、中村町

産業及物産

製紙業、水産業、養蠶業、林業

紙、鯨節、鯨、珊瑚、木材、薪炭

交通上の事項

陸路、高知市附近は交通稍便利なれども北部山地は頗る不便なり。

海路

浦戸港より坂神及び沿岸諸港に汽船の往復ありて陸路に比すれば便利なり。

神社佛閣名勝舊跡等

著名なるものなけれども、僻遠の地なれば昔より此地に誘せられたるもの又落人な
どの遺跡多し。

備考

仁淀川上流の地方は製紙原料楮、三極の産多く、此の川を利用して下流に運搬す。

中村町は西部樞要の都邑にして、此の地方の産物多くは此處に集る。

高知市の近傍に電氣鐵道ありて交通便利なり。

養蠶業は未だ幼稚なれども近年に至りて漸く盛ならんとするの傾向あり。

林業は近年大に發達して多く木材を産出す。

九州地方

福岡縣 (一)

福岡縣 (一)

(福岡縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

筑後川、遠賀川、筑紫平野、玄海灘、周防灘、有明海、

都邑

福岡市、門司市、小倉市、若松町、久留米市、八幡町、大牟田町、

産業及物産

石炭、米、久留米餅、博多織、酒、生蠟、綿糸、製紙、

交通上の事項

九州鐵道本線及其三支線(豊州線、筑豊線、篠栗線、博多灣鐵道、

神社佛閣名勝舊跡等

太宰府神社附、都督府跡及水城、元寇遺蹟(石疊等)、香椎宮、宮崎宮、

以上各項の外重要な事項

醫科大學、師團、旅團、聯隊、製鐵所、

備考

福岡市近傍には有名なる宮崎宮及元寇の遺跡として石疊等の跡を止め、市中東公園には之れに關聯せる龜山上皇並に日蓮上人の銅像建てり。

八幡洞、海を隔て、若松港に相對し、其間一哩餘、製鐵所建設以來人口の増加甚だしく、現今三萬五千餘に達せり。

大牟田町、近傍に有名なる三池炭山ありて其産出夥しく、從來舟にて肥前口、津港に送りて輸出せしも、三井家獨力にて築港を計畫し、昨今工事中。

酒、主として筑後川筋に産し、産額六百六十萬圓に上る。

生蠟、主として筑後平野の上部一帯に産し、其額三百萬圓に上る。

綿糸、博多、久留米、大牟田の紡績會社より出し、其額四百四十三萬圓に達す。

紙、西洋紙は小倉市近傍の千壽製紙會社より出で、年額六十四萬圓、和紙は主として筑前の一部及筑後等の山地より出で、其額九十六萬圓に上る。

福岡縣 (二)

(福岡縣女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

福岡縣 (一)

(福岡縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

筑後川、遠賀川、筑紫平野、玄海灘、周防灘、有明海、

都邑

福岡市、門司市、小倉市、若松町、久留米市、八幡町、大牟田町、

産業及物産

石炭、米、久留米緋、博多織、酒、生蠟、綿糸、製紙、

交通上の事項

九州鐵道本線及其三支線(豐州線、筑豐線、篠栗線)、博多灣鐵道、

神社佛閣名勝舊跡等

太宰府神社附、都督府跡及水城、元寇遺蹟(石疊等)、香椎宮、宮崎宮、

以上各項の外重要な事項

醫科大學、師團、旅團、聯隊、製鐵所、

備考

福岡市近傍には有名なる宮崎宮及元寇の遺跡として石疊等の跡を止め、市中東公園には之れに關聯せる龜山上皇並に日蓮上人の銅像建てり、

八幡洞、海を隔て、若松港に相對し、其間一裡餘、製鐵所建設以來人口の増加甚だしく、現今三萬五千餘に達せり、

大牟田町、近傍に有名なる三池炭山ありて其產出夥しく、從來舟にて肥前口、津港に送りて輸出せしも、三井家獨力にて築港を計畫し、昨今工事中、

酒、主として筑後川筋に産し、産額六百六十萬圓に上る、
生蠟、主として筑後平野の上部一帯に産し、其額三百萬圓に上る、

綿糸、博多、久留米、大牟田の紡績會社より出し、其額四百四十三萬圓に達す、
紙、西洋紙は小倉市近傍の千壽製紙會社より出で、年額六十四萬圓、和紙は主として

筑前の一部及筑後等の山地より出で、其額九十六萬圓に上る、

福岡縣 (二)

(福岡縣女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

福岡縣 (二)

福岡縣 (二)

1100

沖島、遠賀川、筑後川、玄海灘、有明海、筑紫平野、海中道、玄海島、西戸崎、海中道の西部にあり、築港し博多灣鐵道を通ず、博多灣、

都邑

福岡市、久留米市、小倉市、門司市、若松、直方、枝光、八幡町、飯塚、三池、大牟田、

交通上の事項

鐵道の發達、遠賀川と運炭、遠賀川改修工事、

遠賀郡壽命洞海間の運河、黒田侯の開鑿、今は運炭上著しき効をなせり、

産業及物産

遠賀川流域及筑後川流域の米産、炭田と採掘額、遠賀川炭田は遠賀、鞍手、嘉穂、田川の四郡、三池炭田、粕屋郡の炭田、

清酒、製鐵(東洋第二)、博多織、久留米緋、筑後八女郡の茶、

神社佛閣名勝舊跡等

太宰府、太宰府神社、箱崎宮、水城、東公園(福岡市の東)、玄海灘沿岸石壘址、

挿畫

太宰府遺址及太宰府神社、炭坑内作業圖、坑外面圖、門司港(殊に石炭を汽船に積込む景)、

製鐵所の景、

大分縣

山川岬角海灣等自然地理上の事項

國東半島、別府灣、由布岳、鶴見山、山國川、關崎(一名地藏崎)、祖母山、九重山、大野川、都邑

大分、別府、中津、臼杵、竹田、佐伯、佐賀關、

産業及物産

壘表、水産物(佐賀關)、米、金(日田郡)、硫黃(九重山)、

交通上の事項

鐵道、航路、

神社佛閣名勝舊跡等

宇佐神宮、耶馬溪、

以上各項外の重要な事項

大分縣

1101

佐賀縣

別府及其附近に温泉多し。
備考

祖母山は地勢上大分縣に關すること多きのみならず縣内各地より望見し得るの便あるを以て、本縣下に於て教授するを適當とす。

佐賀縣

(佐賀縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

佐賀縣は福岡縣の西に連り、北は玄海灘、南は有明海に臨む。北方福岡縣界には九州北部山脈東西に走り、春振山、天山等を崛起し、西南方には多良岳の消火山聳え、其支脈は西北に延びて一帶の丘陵をなし、松浦半島となり、唐津灣と伊萬里灣との間に突き出づ。海岸は出入繁く、多くは絶崖にして、中に七釜、玄武岩洞の奇勝あり。東南の福岡縣界には九州第一の大河なる筑後川の流るゝありて所謂廣大なる筑紫平野を開く。此平野は土地肥え農産豊なり。

都邑

佐賀市、筑紫平野の西部にありて鐵道長崎線に沿ふ。此地は元鍋島氏三十六萬石の城池なり。今は縣廳ありて人口三萬四千に近く、維新の際は藩主閑叟公を初め志士輩出し、大に王政復古の大業を翼賛せり。

唐津、松浦河口にありて唐津灣に臨み、縣下第一の貿易港にして人口一萬一千餘。石炭の輸出多く、近時釜山との定期航海を開きたるを以て、將來益隆盛に向ふべし。此地より唐津燒を産す。

住江、六角川(又武雄川)の下流にあり。有明海に面せる良港にして、明治三十九年開港となりてより俄に殷賑の地となれり。石炭、米の輸出盛なり。

有田、縣の西部、鐵道長崎線に沿ひたる一驛にして、四面山岳を以て包まれるれども、此附近陶磁石を産すると多く、採掘して所謂有田燒を製す。其年額三十五萬圓に上る。伊萬里、伊萬里灣頭にあり。蓋し有田燒を此地より輸出したるを以て名あり。近時鐵道の開通以來、有田燒は多く鐵道によりて輸出せられ、稍其繁華を奪はれたり。

産業及物産

水産、玄海灘は漁業盛にして鯨、鰹、鯛の漁獲多く、水産年額百二十五萬圓に及ぶ。石炭、北半部地方至る處に産し、殊に芳谷、杵島、北方、赤坂口等は名高き炭坑にし

佐賀縣

佐賀縣

二〇四

て、此等の炭坑より掘り出されたる石炭は唐津、住江、長崎等に運ばれ、北清、上海、香港等に輸出せらる。年額九十萬噸に上り、本邦中第三位にあり。陶磁器。有田及其附近、西南部等より産し、年額六十三萬圓に上ると云ふ。製茶、織物。未だ産額多からずと云へども、前途有望の生産業として大に改良進歩を計りつゝあるは製茶、織物等なりとす。製茶業は東北部及西部に盛なり、中にも嬉野茶は外國輸出の嚆矢にして其名高し、織物は東部の三養基、綿織、佐賀、ネル最も名高し。

交通上の事項

鐵道は福岡縣より來る、鳥栖にて八代線と分れて長崎線となり、西方に進み佐賀、有田を經長崎縣に入り、遂に長崎に至る。長崎線は久保田より西唐津に至る支線唐津線を分岐して有田より伊萬里に至る伊萬里線を分岐す。神社佛閣名勝舊跡等

名古屋。東松浦半島北部呼子の西に接し、豊臣秀吉が朝鮮征伐の際本營を置きし地は其西丘陵上に存し、一望の中に壹岐、對馬を望み、遙に朝鮮の地に對せり。今は唯古瓦斷礎往時の面影を止むるのみ。

虹、松原。唐津の東北にあり、二里に亘る海濱に低き砂丘ありて、其丘上に松樹密生し、爲めに白沙青松相映じ、北は渺々たる玄海の青波岸を洗ふ様實に天下の勝地たるに耻ぢず、且夏季に於ける海水浴場として最も適當の地なれば浴客は年々其多きを加ふ。

挿畫

唐津港、名古屋城址、炭坑。

長崎縣

(長崎縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

彼杵半島、島原半島、五島、平戸島、壹岐、對馬、大村灣、千々石灘、温泉岳、都邑

長崎、佐世保、口津、竹敷、島原、諫早、大村、平戸、福江、嚴原。

産業及物産

水産業、農業、鯨、鯨節、鱧、眞珠貝、蜜柑、石炭、金、鼈甲細工、煙草。

長崎縣

二〇五

交通上の事項

佐賀縣より來り長崎に至る鐵道、早岐より佐世保軍港に至る鐵道、内外及沿岸航路(長崎起點並經由)。

神社佛閣名勝舊跡等

鷹島、原城、平戸、鄭成功遺跡。

以上各項外の重要な事項

本縣が半島、島嶼に富むこと、對馬が軍事上の要地なること、外國貿易に於ける長崎港の將來につきて。

備考

島原以下の都邑は舊城址又は郡役所所在地たる外、大村は旅團司令部、嚴原は警備隊の所在地として、平戸は舊開港場、福江は漁業地の中心、島原は沿岸航路の要津として挙げたるものなり。

海産物は本縣の主要産物にして其の産額千葉縣に次ぎ、本邦に於て第三位を占む。眞珠貝は大村灣に産するものにして現今盛に養殖をなす。本邦に於て志摩の産に次いで著名なるものなり。

蜜柑は伊木力蜜柑と稱し、長崎市の北方地方より産す。品質に於て全國に比類少し。金は佐賀縣に接せる上波佐見より産す。産額は多からざるも前途有望なり。烟草は其原料を島原地方より産し、長崎に於て之を製造するものなり。

熊本縣

(熊本縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

阿蘇山と温泉、宇土半島、有明海と八代海、天草群島、肥後平野、球磨川、白川、菊池川、緑川、都邑

熊本市、八代町、三角港、人吉町、隈府町、山鹿町、高瀬町。

産業及物産

肥後平野の農業、球磨及益城地方の林業、米、粟、馬、木材、銅、セメント。

交通上の事項

九州鐵道線及三角支線、沿海航路、熊本輕便鐵道。

神社佛閣名勝舊跡等

熊本縣

熊本城本妙寺、田原坂、出水神社、成趣園、八代宮、菊池神社、阿蘇神社、

以上各項外の重要なる事項

五家莊

押書

熊本城

備考

熊本市には第六師團司令部、縣廳、市外には高等工業學校、第五高等學校、本妙寺、成趣園等あり。

宮崎縣

(宮崎縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

宮崎縣は九州の東南部にありて、北は大分縣につらなり、西は熊本縣に接し、西南は鹿兒島縣に界し、東は日向灘にのぞむ、西方に霧島山あり、東西兩峯にわかる、名高き火山なり、中部の西境に市房山、北境に祖母山あり。

大淀、五箇瀬、耳を大河とし、一瀬、小丸の二川につく。

海岸はおほむね直行して海岸線僅かに七十餘里に過ぎず、たゞ北方及び南方の海岸には稍出入ありて自然の港灣をつくり、北部に細島港、土々呂港あり、南部に油津、内海の諸港あり。

都邑

本縣は土地廣くして人少きが故に著しき都邑なし、只中央に宮崎、西南部に都城、東北部に延岡あり、宮崎は縣廳の所在地なり、之につぎて、飯肥、高鍋を稍繁華の地とす。

産業及物産

山勝の地勢にて氣候溫暖なるを以て、山地より許多の材木を出し、副産物として木炭及び椎茸を出す。

五箇瀬川の上流には日平、檜峯等の銅山あり、産額頗る多し。

牧畜も稍盛にして牛馬の産多し。

麻の産額は全國の第三位にあり、甘薯の産額なからず。

交通上の事項

海岸は直行して港灣少く、他の三方は山脈にて限られたれば、交通は不便なり。

神社佛閣名勝舊跡等

宮崎に官幣大社宮崎宮あり、神武天皇をまつる。

鶴戸に官幣大社鶴戸神宮あり、鶴鷄草葺不合尊をまつる。

備考

林産物は北部より出で、林業副産物として著名なるは椎茸、木炭等なり。明治三十七年宮崎縣統計書山林欄によりて取調ふれば左表を得べし。

郡名	林業者		林産物總價格	森林植栽
	戸數	人員		
宮崎郡	一、二二五	二〇三五	一六〇、九九〇	二三八、一〇〇
南那珂郡	二、七二九	三、六七六	二三〇、二六八	五〇四、三六〇
北諸縣郡			九八、一〇七	八九〇、五八〇
西諸縣郡	三九一	五二二	二六、七三三	一七八、〇六〇
東諸縣郡	三七〇	四六〇	一一三、七一	一三九、四〇〇
中部 兒湯郡	一〇五六	一、九九二	一六三、三八二	六五三、七〇〇
北部 東臼杵郡	二、四三二	四、七〇二	八八六、九五七	五三一、七〇〇

鹿兒島縣

(鹿兒島縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

鹿兒島灣、佐多岬と開閉岬とを以て抱かれ、北に灣入すること凡二十里、沿岸の低地に鹿兒島市、加治木、國分の都邑あり。

山、開閉岳は櫻島嶽と共に霧島火山脈に屬す、縣の北部には九州南部山脈連亘し、其支脈至る所に起伏し、平地少なし。

川、川内川は日向に發し、南部山脈と并流す、流程四十六里、舟楫の便あり、河口に近く、向田驛あり、鐵橋を架す。

氣候、溫暖にして多雨なり、溫度は鹿兒島市に於て冬期一月の平均攝氏八〇、最高一九五、最低〇・五にして、夏期八月平均二七・一、最高三三・四、最低二一・四なり、雨量は一月

鹿兒島縣

計	西臼杵郡		計
	戸數	人員	
	二、三五七	六、七〇四	一、九三、二三五
	一〇、四六〇	二〇、〇九二	一、八八三、三八三
			六五三、五七〇
			三七八、九三二

の總量一一二六耗最多一八一耗、七月の總量四七三耗、最多一〇九七耗なり。
(以上は明治三十六年調)

都邑

鹿兒島縣 市廳の所在地にして人口六萬、第七高等學校、造士館あり、市の西北一里に
歩兵第四拾五聯隊兵營あり、薩摩耕、薩摩燒、錫器等を産す、近年百萬餘圓の資を投じ
て港を築けり、九州鐵道線全通せば海陸相待て益繁盛なるに至らん、
産業及物産

重なる産業は農、牧、漁業にして、鑛山に従事するものも少なからず。

農産 氣候溫暖なるが爲め煙草、甘藷、甘蔗、果實等を産す、就中甘藷は一億八千萬貫を

産し、全國産額の七分の一を占む。

砂糖は西南諸島に産し、白砂糖十八萬貫、黒砂糖二百八十萬貫、本邦第二位にして琉球に次ぐ。

煙草は國分、出水、揖宿、煙草名高く、産額八十一萬貫、本邦第三位にあり。

(以上は明治三十六年調)

水産 海岸線長く、近海は黒潮の通路に當り、水産物頗る多く、鯉、鱒、烏賊、鰯等重なるものなり。

鑛産 山、野金山、芹、野金山、牛尾金山等名高く、産金額百拾萬圓、全國産額の三分の一を占む。

(以上は明治三十五年調)

牧畜 馬は古來有名にして、九州種馬牧場の設あり。

神社佛閣名勝舊跡等

霧島神宮、鹿兒嶋神宮、照國神社及本願寺別院は重なる、社寺にして、鹿兒島市西北端城
山に西郷隆盛戦死の跡あり。

以上各項外の重要な事項

温泉にては、有村、霧島、揖宿温泉等名高し。

揮毫

鹿兒島市と櫻島、櫻島大根を附記す。

沖繩縣

(沖繩縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

沖繩縣

本縣は沖繩、宮古、八重山、石垣、西表等の三大島及び之に附屬する五十有餘の小島嶼より成る。

都邑

那覇 開港場の一にして、人口四萬千七百九十三。
首里 舊王城のありし所にて、人口二萬二千八百十七。

産業及物産

近來貯藏食品製造會社、阿旦葉帽子製造會社、酒精製造會社等設立せられ、盛に製出品を縣外に輸出す。豚は本縣戸數十萬五百十一戸に對し十萬千二十六頭あり。織物は芭蕉布、紬を最とす。

交通上の事項

那覇港より普通汽船にて鹿兒島港迄三日目(途中鹿兒島縣下大島郡名瀬港寄港)にて、又神戸港へは六日目(鹿兒島寄港)にて到達す。

以上各項外の重要な事項

跡は明治の始之を嚴禁せり。古老又は無教育者は本縣古來の結髮にて純然たる方言を使用すれども、新教育を受けたるものは其風姿、言語他府縣の住民と少も異ならず。

備考

前記の數は明治三十八年の調査。

北海道

(北海道師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置 我國の東北部なること、北海道本島と千島とより成ること。
境界 東北端はカムチャッカ半島に對すること、南端は青森縣に對すること、北端は樺太島に對すること、西は日本海、東南は太平洋、東北はオホーツク海に臨むこと。
北海道十一國 渡島後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室、千島。

行政區劃

北海道廳
十六支廳 函館支廳、檜山支廳、壽都支廳、岩内支廳、小樽支廳、札幌支廳、空知支廳、上川支廳、室蘭支廳、浦河支廳、河西支廳、釧路支廳、根室支廳、網走支廳、宗谷支廳、増毛支廳。

本縣は沖繩宮古八重山(石垣西表等)の三大島及び之に附屬する五十有餘の小島嶼より成る。

都邑

那覇 開港場の一にして、人口四萬千七百九十三。
首里 舊王城のありし所にて、人口二萬二千八百十七。

産業及物産

近來貯藏食品製造會社、阿旦葉帽子製造會社、酒精製造會社等設立せられ、盛に製出品を縣外に輸出す。豚は本縣戸數十萬五百一十一戸に對し十萬千二十六頭あり。織物は芭蕉布、紬を最とす。

交通上の事項

那覇港より普通汽船にて鹿兒島港迄三日、途中鹿兒島縣下大島郡名瀬港寄港にて、又神戸港へは六日、(鹿兒島寄港)にて到達す。

以上各項外の重要な事項

鯨は明治の始之を嚴禁せり。古老又は無教育者は本縣古來の結髪にて純然たる方言を使用すれども、新教育を受けたるものは其風姿、言語他府縣の住民と少も異ならず。

備考

前記の數は明治三十八年の調査。

北海道

(北海道師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置 我國の東北部なること、北海道本島と千島とより成ること。

境界 東北端はカムチャッカ半島に對すること、南端は青森縣に對すること、北端は樺

太島に對すること、西は日本海、東南は太平洋、東北はオホーツク海に臨むこと。

北海道十一國 渡島後志石狩天鹽北見膽振日高十勝釧路根室千島

行政區劃

北海道廳

十六支廳 函館支廳、檜山支廳、壽都支廳、岩内支廳、小樽支廳、札幌支廳、空知支廳、上川支廳、室蘭支廳、浦河支廳、河西支廳、釧路支廳、根室支廳、網走支廳、宗谷支廳、増毛支廳

北海道

區役所 函館區役所、小樽區役所、札幌區役所

面積 五大島中他の四大島との比較

岬角 襟裳岬、納紗布岬、知床岬、宗谷岬、神威岬、白神岬、惠山岬

海灣 内浦灣、壽都灣、石狩灣、根室灣

山脈 縱貫山脈(北天山脈、日高山脈)、千島帶火山脈、中央山彙

高山 旭岳、石狩岳、十勝岳、天鹽岳、羊蹄山

火山 駒ヶ岳、有珠岳、樽前岳、雌阿寒岳、雄阿寒岳、良牛岳

河川 石狩川、天鹽川、十勝川、尻別川、釧路川

平野 石狩原野、上川原野、俱知安原野、十勝原野

氣候 東部地方は稍寒冷なるも西部地方は溫和なること、旭川、帶廣地方は寒暑の差

頗る著しきこと、健康に適すること、海流(千島海流、樺太海流、對馬海流)、根室、釧路海岸

は夏季 霧の多きこと

都邑

函館區 所在、津輕海峡、青森に對すること、開港場、人口、函館區役所、函館支廳、鐵道、小樽

に通すること、森、長萬部、俱知安、余市を経て、航路(東廻り、西廻り、横濱との航路、新潟下、

關との航路、船渠、五稜廓、函館水

福山 松前氏の居城地たりしこと

江差 檜山支廳

壽都 壽都支廳

岩内 岩内支廳、尻別川、俱知安原野、羊蹄山(蝦夷富士)

余市 林檎、葡萄、鮎、積丹半島、神威岬

小樽區 所在、開港場、人口、小樽區役所、小樽支廳、鐵道(一は札幌を経て岩見澤に至り、一

は函館に通ず)、航路(南は函館、北は増毛、利尻、稚内、網走、樺太、ウラデオストック)

札幌區 所在、北海道廳、札幌區役所、札幌支廳、農科大學、會社、麻布、麥酒、人口、石狩原野、石

狩川

石狩 石狩河口、河の航路、鮭漁

増毛 増毛支廳

留萌 炭山、鐵道支線(未設)

岩見澤、空知支廳、鐵道分岐點(一は苦小牧を経て室蘭に至り、一は砂川に至り旭川線

に接続す)、石狩の諸炭山(夕張、幌内、幾春別、歌志内)

室蘭 所在(内浦灣口にあること)開港場、石炭の輸出、室蘭支廳、航路青森直航附、虻田、虻

田地方土人

浦河 所在、襟裳岬、浦河支廳、御料牧場、日高山脈の峻しき爲め、廣尾との通路困難なる

こと、附平取、沙流川、アイヌ部落、風俗。

旭川 所在、上川平野、第七師團司令部、上川支廳、中央道路網走、鐵道(釧路線、天鹽線)旭岳

離宮地(神樂岡)附、天鹽川、名寄原野。

稚内 所在、宗谷岬、宗谷海峽、日本海、オホーツク海、宗谷支廳。

枝幸 砂金。

網走 所在、通路(旭川に至る、斜里を経て根室に至る、釧路に至る、帶廣に至る)、網走支廳、

猿洞湖、網走湖、湧別川。

帶廣 所在、十勝川、鐵道、河西支廳、原野、大豆、小豆。

釧路 所在、釧路川、開港場、鐵道、釧路支廳、硫黃、鯨、昆布、雄阿寒岳、雄阿寒岳、阿寒湖(カバチ

エゾノ魚)。

厚岸 牡蠣、昆布。

根室 所在、冬期結氷のこと、昆布、鯨、花咲灣、西別川の鮭、根室支廳、納紗布、岬、知床岬。

千島 列島のこと、海獸、海草、北千島諸島の無人島なること、國後島の泊、硫黃、擇捉島の

紗那、鱒、鮭、色丹島土人のこと、占守島。

産業及物産

農業 米、豆、麥、馬鈴薯、蕎麥、亞麻、木材、果實、養蠶。

牧畜 馬、牛、豚。

漁業 鯨、鮭、鱒、鱈、鰻、柔魚、昆布、海鼠、鮑。

礦業 石炭、砂金、硫黃、銀、銅、石油、滿庵(前途有望)。

交通上の事項

鐵道 函館—森—黒松内—俱知安—余市—小樽

小樽—札幌—岩見澤

岩見澤 室蘭

砂川—旭川

旭川 上富良野—下富良野—落合—帶廣—厚内—釧路

釧路—士別—名寄

航路 函館—室蘭—浦河—廣尾—大津—釧路—根室—泊—紗那

北海道

函館—小樽—利尻—宗谷—枝幸—網走

神社佛閣名勝舊跡等

札幌神社、有珠の善光寺、厚岸の國泰寺、虻田の洞爺湖、大沼、阿寒湖、神威古潭、支笏湖、松前城址、五稜廓、シヤグシヤイン址

以上各項外の重要な事項

松前氏のこと、元とアイヌ人の住する所なりしこと、但し蝦夷島の名稱を用ゐざること、開墾の事業しだいに進みたること

人口百二十万餘、尙原野の廣野なること、北海道廳が拓地殖民獎勵の爲に移住者に對し種々の便宜なる方法を興へ居ること、景色の雄大なること、殊に秋景の秀麗なること、アイヌ人のこと、色丹土人は占守島より移住せしめたる穴居の土人なること

北海道の東部、西部なる名稱のこと、北海道を二分して東部北海道、西部北海道なる名を用ふることもあり、之に二法あり、一は北方石狩灣より南方苫小牧海岸にいたる中央窪地帯を境界として、之より西南部を西部北海道といひ、東北部を東部北海道と稱す、一は南北縦貫山脈を境界として、兩部に區別するもの、即ち渡島、後志、石狩、天鹽、膽振、日高を西部とし、北見、十勝、釧路、根室方面を東部とするものなり、普通には後法を以て

區別することむしろ適切なるべし、乃ち諸種の統計數に徴するも、氣候上より見るも、其他諸般の狀況も大に差異あるなり、故を以て中央縦貫山脈を以て北海道を兩部に區別し、然る後之を各部分に區別すること其當を得たるものなるべし。

挿畫

開墾地方又は牧場の圖を入れること

漁業の圖を加ふること

備考

現在の教科書小學地理二北海道中、字句名稱の修正を望み、且つ將來の教科書には訂正の上發表を望ましき條項

「本島には南北に連れる一つづきの山脈あり云々の下に、北部は北天山脈にして南部は日高山脈なりその中部は云々の句を挿入し、以て二山脈を表はして其名稱を一定せしめ、南北に連れる山脈を縦貫山脈と稱し、中央の山脈即ちオプタテシケ山脈を中央山脈と改稱すること。

理由、從來北見國と天鹽國との境界線たる山脈には或は北東山脈或は北見山脈或は蝦夷山脈等種々の名稱を附しありて、而して何れも十分に其山脈の所在を明か

ならしむる能はず、却て名稱のために其の所在を惑はしむるの恐れあり。北天山脈は北見の北と天鹽の天とを合したることは一見明瞭にして、又其意味を附會せば所謂北方の天空に連亘せるの義となり甚だ妥當のものたるなり。又南北に連なれる山脈には蝦夷山脈の名稱を被らしむるものあれども、蝦夷なる文字は今日甚だ卑下の意を寓するものとなり、一般に之を忌むの傾向あるを以て、之を縦貫山脈と改稱する方適切ならん。又オプタテシケ山嶽なる名稱も其意義を表はすの餘地なきを以て甚だ世人に知られ易からず、寧ろ中央山嶽と稱するの簡略なるに如かず。マツカリ岳を羊蹄山と改むること。

理由。もと後方羊蹄山と書せしが、今日は蝦夷富士といひ又は單に羊蹄山と稱するは普通なればなり。

(注意) 北海道の地名には不備不道のもの多く従つてこれらに命名改稱を企圖するもの少からず。

本報告者の北天山脈、羊蹄山、旭岳等の稱を用ひんとするもの亦其の一なり。一脱として保存すべしと雖果して之を適當とすべきか否かに就きては十分の調査を要す。

又タクカムウシユベ岳を旭岳と改稱すること。

理由。全道第一の高山なれども語呂悪きために殆ど本名を知るものなし、該山は

旭川市街の東方に峙ち且つ忠別川(即ちチユブベツ之を意譯すれば旭川なり)の水源地にあたり、殊に我全國の上より見るも東部方面にあるを以て旭岳の名稱最も正當なるべし。今や石狩岳と誤認して或は石狩岳なりと稱ふるものあるにいたる、注意すべき件なりとす。

(注意) ヌマクカムウシユベ岳はもと邦人間に石狩岳と稱せしものなり。誤認にあらず。但し當時地理調査不完全なりし結果、石狩岳を石狩川の水源なりと誤認せしため、後眞の水源地に別の石狩岳を求め舊來の石狩岳はアイヌ名を以て呼ぶに至りしなり。

臺灣

(臺灣總督府報告)

面積。本島の面積は明治三十七年度に終了せる臨時臺灣土地調査局實測の結果、左の如く定れり。

臺灣本島

二、三、一、八、五、一、四、八

同 屬島

五、六、四、九、八

澎湖本島

四、一、六、五、〇

臺灣

同 屬島

四〇六〇四

計

二二三三三九〇〇

新高山の高さ

一四、〇〇〇_R

本多静六氏観測

一三七〇〇

齋藤音作氏観測

一二、〇〇〇

ステーベル氏観測

一二、九〇〇

齋藤讓氏観測

一二、八五〇

水路誌記載

一三、〇二〇

臺灣諸島誌記載

一三、一〇四

臨時臺灣土地調査局記載

農産

臺北測候所観測

産額順に従へば、米、甘蔗、茶、甘藷、落花生。

米の收穫、年二回とす。

人口、明治三十八年十月一日戸口調査の結果は蕃人を除き、人口三百三萬九千七百五十一人を算せり。

鐵道

基隆より打狗まで開通し、現時伯公坑(苗栗の南方十六哩五葫蘆墩(臺中の北方八哩八)間九哩四分のみ輕便鐵道を以て南北鐵道線に連絡し、旅客及運輸の便を計

る。雖ども、此間鐵道工事中にて、明治四十年年度中には全部竣工貫通の豫定なり。臺北、近來臺北は市區改正の結果、城壁は全部取り拂はれ、街路は廣大に清整せられ、家屋は殆ど内地風に改築せられて、全く舊狀を一新したり、左れば市街は城内(名稱依り)城外より成り、城内には内地人多く、街路清潔整正にして官衙、病院、學校等宏壯の建築多く、城外は支那風の市街にして、蚺舂、大稻埕の二區より成る。

塗葛窟と鹿港、塗葛窟は領臺の始は稍盛なりしも現時全く衰微せり、但し彰化の西方なる鹿港は往時繁昌を極めし良港なりしが、近年漸次港口埋没の結果昔日の繁榮を見る能はずといへども、今尙安平、基隆に次げる本島有數の貿易港なり。媽宮はマキニーと訓む。

其他重要な事項

臺灣と内地並に南清地方との交通に關すること、海底電線、定期航海船、輸出入品等、古來土匪の跋扈せし處なるも近年全く跡を絶ちしこと、郵便、電信、道路等の大要。

教育の大要(内地人、本島人、蕃人教育の區別等)
臺灣神社のこと。
米の産出は中部に最も多きこと。

小學日本地理資料報告彙纂終

明治四十一年三月十一日印刷

小學日本地理資料報告彙纂

明治四十一年三月十四日發行

定價金四拾五錢

著作權者 文 部 省

發行者 東京市日本橋區新右衛門町十六番地
株式會社 國定教科書共同販賣所

代表者 大 橋 新 太 郎

印刷者 東京市本所區番場町四番地
廣 瀨 鐘 太 郎

印刷者 東京市本所區番場町四番地

印刷者 內外印刷株式會社



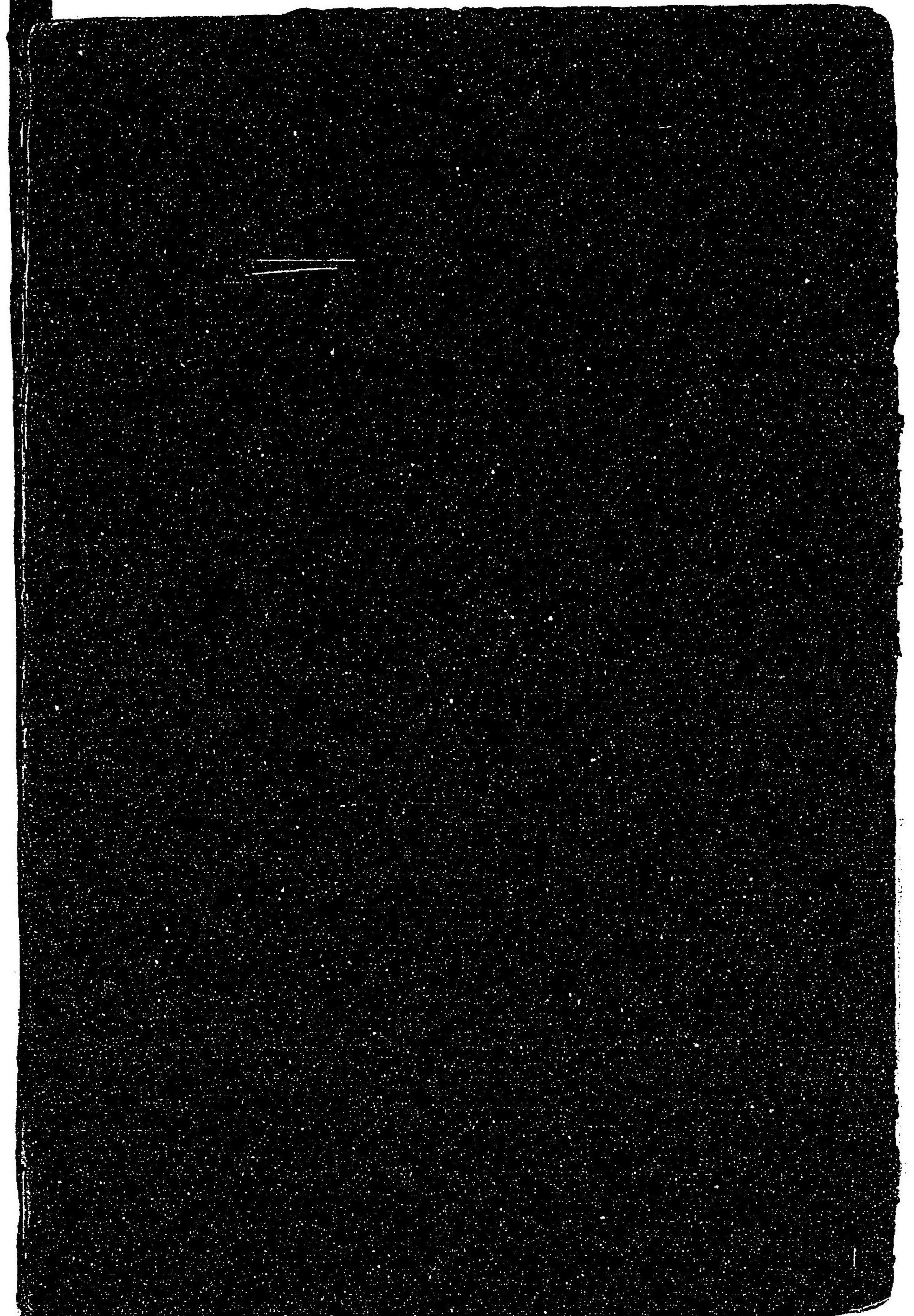
東京市日本橋區新右衛門町十六番地

發行所

株式會社 國定教科書共同販賣所



63
50



63
50

022532-000-1

63-50

小学日本地理資料報告彙纂

文部省／編

M41

ADB-0211

